

東京都方言



東京都方言区画図

【東京都方言の区画】東京都の方言は、八丈島を含む島嶼部の方言とそれ以外の本土とに大きく分かれる。ここでは本土方言を取り上げる。

東京都本土方言は、かつては、江戸語の流れを継いだ東京旧市内（千代田区、中央区、港区、文京区、台東区と、新宿区、墨田区、江東区のそれぞれ一部。方言区画図の「伝統的東京方言」エリア）と、関東方言的なそれ以外の地域とで大きく異なっていた。しかし、度重なる大規模な社会変動と人口移動、交通網の発達などにより、双方ともが、急激で徹底的な共通語化にさらされ、伝統的な特徴の多くを失った。その結果、現在、特に中若年層では、明らかな俚言もなく、全域で共通語に近いほぼ均質なことばが話されていると意識されている。実際、属性差、場面差、個人差等の社会言語学的差異に比して、地域差は目立たない。

このような現状を踏まえて試みたのが、上記の方言区画である。まず行政区画にしたがって、大きく23区方言と多摩方言に二分する。多摩方言は、高年層を中心に従来の関東方言的特徴を比較的残しており、多摩西部方言はさらにその傾向が強い。23区南西部方言は最も方言的特徴が薄く、言語規範意識が高い傾向がある。また、隣接する神奈川県から神奈川県以西出自の語形をいち早く取り入れることがあるが、この地域で使われるようになった語形は、ほどなく「共通語」または「俗語的な共通語」として全国に広がっていくことになる。この傾向は、多摩東部方言にも見られる。23区北東部方言には、接する埼玉県、千葉県と共通する語彙が見られる。北関

東・東北出自の語形を埼玉県・千葉県経由でいち早く取り入れることもある。またアクセントの面で、高年層を中心に、埼玉特殊アクセントに連続する曖昧アクセントの特徴が見られる地域を含む。

【東京都方言について】記述の主な対象とするのは、共通語の基盤となっている、23区南西部・多摩東部の中年層のことばである。したがって例えば、意志・推量を表す「～べー」などは、多摩方言高年層で残存しており、23区若年層では再生して若者語的に使われることがあるが、ここでは取り上げていない。一方、伝統的東京方言については、少なくとも活用に関しては今回の対象と大きな違いはないこと、「共通語の基盤言語」の一つと位置づけられることから、用例として示し、必要に応じて説明を加えることにした。

【表記について】東京都方言の高年層話者には、ガ行鼻濁音が存在するが、破裂音と区別せず、「ガ、ギ、…」/g/のように表記する。

【調査概要】本稿の記述は、23区南西部および多摩東部で生育した筆者（1961年生）の内省と観察による。用例は、主として、東京旧市内の明治30年～昭和20年代生まれの話者の自然談話文字化資料による（用例出典参照）。談話資料の用例の表記は、片仮名のものは漢字平仮名交じりに改めた。格助詞の「オ」は「を」、とりたて助詞の「ワ」は「は」と表記した。また、言いよどみ、言い誤りなどを、用例提示の趣旨に差し障りがないと判断した範囲で省略した部分がある。共通語訳は意味がわかりにくいと思われる箇所のみ付した。引用元を示していない用例は、筆者の内省と観察によるものである。

ここで記述する東京都方言の活用体系は、小西いずみ(2014)「活用体系の地理的変異と記述の枠組み」(『全国方言文法辞典資料集(2) 活用体系』pp.1-19)、および、「【資料】要地方言の活用対照表」「共通語」(同 pp.155-156)に示されている共通語の体系と大きく異なるものではない。その上でここでは、一部若年層を含め、インフォーマルな話しことばに多く現れる形式をできるだけ取り上げるように留意した。

東京都方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキナ	ミロ ミナ	コイ キナ 《オイデ》	シロ シナ
	禁止	カクナ	ミルナ ミンナ	クルナ クンナ	スルナ スンナ
	意志	カコ (一)	ミヨ (一)	コヨ (一)	シヨ (一)
	推量	カクダロ (一) カクデシヨ (一) カクンジャナイ カクンジャネ (一)	ミルダロ (一) ミンダロ (一) ミルデシヨ (一) ミルンジャナイ ミンジャネ (一)	クルダロ (一) クンダロ (一) クルデシヨ (一) クルンジャナイ クンジャネ (一)	スルダロ (一) スンダロ (一) スルデシヨ (一) スルンジャナイ スンジャネ (一)
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	△カキ カイテ	△ミ ミテ	△キ キテ	△シ シテ
	仮定	カケバ カキヤ (一) カイタラ	ミレバ ミリヤ (一) ミタラ	クレバ クリヤ (一) キタラ	スレバ スリヤ (一) シタラ
派 生 類	否定	カカナイ カカネー	ミナイ ミネー	コナイ コネー	シナイ シネー
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル △カカス	ミサセル △ミサス	コサセル △コサス	サセル △サス
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル	ミラレル ミレル	コラレル コレル	《デキル》
	尊敬	カカレル オカキニナル	ミラレル 《ゴランニナル》	コラレル 《イラッサル》	サレル 《ナサル》
	継続	カイテイル カイテル	ミテイル ミテル	キテイル キテル	シテイル シテル
	希望	カキタイ カキテー	ミタイ ミテー	キタイ キテー	シタイ シテー
	のだ	△カクノダ カクンダ カクノ	△ミルノダ ミルンダ ミンダ ミルノ ミンノ	△クルノダ クルンダ クンダ クルノ クンノ	△スルノダ スルンダ スンダ スルノ スンノ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak-u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik-uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag-u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das-u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac-u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin-u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob-u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom-u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir-u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)-u	カッ-タ	w/øをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ アケー	シズカダ	学生ダ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	推量	アカイダロ (一) アカイデショ (一) アカインジャナイ アカインジャネ (一) アケ (一) ンジャネ	シズカダロ (一) シズカデショ (一) シズカナンジャナイ シズカナンジャネ (一) シズカジャナイ シズカジャネ	学生ダロ (一) 学生デショ (一) 学生ナンジャナイ 学生ナンジャネ (一) 学生ジャナイ 学生ジャネ
接 続 類	連体非過去	アカイ アケー	シズカナ	《学生ノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	中止	△アカク アカクテ アカクッテ	シズカデ	学生デ
	仮定	アカケレバ △アカケリヤ (一) アカキヤ (一) アカカッタラ	シズカナラ シズカダッタラ	学生ナラ 学生ダッタラ
派 生 類	否定	アカクナイ アカクネー	シズカデワナイ シズカジャナイ シズカジャネー	学生デワナイ 学生ジャナイ 学生ジャネー
	なる	アカクナル	シズカニナル	学生ニナル
	丁寧	アカイデス アコーゴザイマス	シズカデス シズカデゴザイマス	学生デス 学生デゴザイマス
	のだ	△アカイノダ アカインダ アケーンダ アカイノ	△シズカナノダ シズカナンダ シズカナノ	△学生ナノダ 学生ナンダ 学生ナノ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型には a 類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型には b 類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の 5 形、および、音便形がある。融合によってア段拗音となることもある。「カク」(書く)の場合、カカ-ナイ(kak-a-nai)、カキ-タイ(kak-i-tai)、カク(kak-u)、カケ(kak-e)、カコ(一)(kak-o-(R))、カイ-タ(kai-ta)、カジャ(一)(kak-ja-(R))など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル(mi-ru)、仮定形ミ-レバ(mi-reba)、ミ-リヤ(一)(mi-rja(R))、受身形・尊敬形ミ-ラレル(mi-rareru)、可能形ミ-レル(mi-relu)において、r で始まる接辞が付き、かつ、多段型の r 語幹動詞に対応した形となる。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)と「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ(k-i-ta)、ク-ル(k-u-ru)、コイ(k-o-i)などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の 3 段に、「スル」は、サ-レル(s-a-reru)、シ-タ(s-i-ta)、ス-ル(s-u-ru)などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」の 3 段にわたる。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、多段型動詞はウ段形「カク」など、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ル」を付けた「ミル」など、「来る」「する」はウ段形に「ル」を付けてそれぞれ「クル」「スル」となる。

・土色の蜘蛛、あれはいるね。(集成)

断定非過去形・連体非過去形ともに、末尾拍がルの多段型「走る」等、一段型、「クル」「スル」では、

カ・ザ・タ・ダ行で始まる助詞・助動詞・形式名詞が続くときにはルが促音化しうる。撥音化することもある。また、ナ行で始まる助詞が続くときにルが撥音化しうる(例は、禁止形、連体非過去形の箇所を参照)。促音化・撥音化した形式は低いスタイルで用いられる。

・九つのときの地震は何になっかわかんないから(九つのときの地震は何になるか分からないから)(東京弁・「浅草の浮世絵刷師のことば」)

・注文すっときは値段聞かなきゃだめだ。(東京弁・「浅草の浮世絵刷師のことば」)

・お勘定持って来っでしょー?(集成)

・俳優座の坂あんだろー? あの下にね、ずっとね、かなりね、広いね、焼け跡があったの。

(田中)

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形。多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はそれぞれイ段形「キ」「シ」に、「タ」を接続する。

・商い売ってる家(うち)にゃー必ずお稲荷さんあったね。(集成)

〈命令形〉

命令形は、多段型動詞では「カケ」などエ段形、一段型動詞と「する」では「ミロ」「シロ」など「基幹+ロ」、「来る」はオ段形に「イ」の続いた「コイ」である。「くれる」は他の活用形は一段型動詞と同じだが、命令形は「クレロ」ではなく、基幹「クレ」である。

・まあ気をつけて帰れ、とか言って帰すんですもんね。(集成)

・少しでも東京から離れろって、おじさんが言ったんです。(生活・「震災」)

「カケ」「ミロ」「コイ」「シロ」がぞんざいな命令形であるのに対して、やさしい命令形として「カキナ」「ミナ」「キナ」「シナ」などがある。多段型動詞と「来る」「する」はイ段形に、一段型動詞は基幹に、「ナ」を接続する。

・4人で行ってきなよ。(RP)【若年層】

「クル」のやさしい命令形には、代替形「オイデ」もある。

〈禁止形〉

断定非過去形に「ナ」を接続する。断定非過去形の末尾がルのときはルが撥音化することがある。

- ・じろじろ {見るな/見んな} よ。

〈意志形〉

多段型動詞はオ段長音形、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段「コ」に、「する」はイ段「シ」に「ヨ」を付す形。単独で終止する場合には「カコ」「ミヨ」「コヨ」「シヨ」のような短音形が多く現れる。

- ・もう赤坂の空襲のころには、逃げよって、みんなも一誰もね、火消すってゆう意識はなかった。(田中)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」を接続する。断定非過去形の末尾がルのときは、低いスタイルでルが撥音化することがある。確認要求の用法もある。単独で終止する場合には「カクダロ」のような短音形も現れる。

- ・長屋ってあるだろ? 三軒とか五軒とか。(田中)

単独で終止する「ダロ (一)」はそれ自体スタイルが低く男性的である。そのためニュートラルなスタイルでは、全体が丁寧体でなくとも、丁寧形の推量形「デショ (一)」が使われることが多い。

- ・頭 (かしら) やなんか、往來で売るでしょ二。あん時一はも一25、6日 (んち) ごろだよね一。(集成)

また、確信の低い推量形として、「カクンジャンナイ」「ミルンジャンナイ」「クルンジャンナイ」「スルンジャンナイ」など、断定非過去形に「ンジャンナイ」が接続する形がある。単独で終止する場合には、文末上昇イントネーションを伴う。断定非過去形の末尾がルのときは、「ルン」の2拍が撥音1拍となることがある。低いスタイルで「ナイ」は連母音 ai の融合により「ネ (一)」となることがある。短音形「ネ」となる場合は、若年層では飛び跳ねイントネーション(最初が低くて文末に向かって徐々に上昇する。「¹〜²」で示す)を伴うことが多い。

- ・わかんないけどもうすぐ {来るんじゃない↑ / 来んじゃない↑ / 来るんじゃない↑ / 来んじゃない↑ / ¹来るんじゃない / ²来んじゃない}。

〈連体非過去形〉

連体非過去形は、断定非過去形と同形である。断定非過去形の箇所記したように、後続の環境により促音化・撥音化しうる。

- ・何時ごろから店開けんの? (LAT・「商売の話」)

「ル」に準体助詞の「ン」が続いたときも撥音化しうる。この場合は、「ルン」の2拍が撥音1拍となる。

- ・また脱線すんじゃないかってね、話してんだ。(LAT・「チンチン電車」)

〈連体過去形〉

連体過去形は、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

多段型は基幹音便形に、一段型は基幹に、「来る」「する」は、イ段形「キ」「シ」に、「テ」を接続する。

- ・二十歳 (はたち) までにも一、自分も、結婚して、死なれて、子ども抱えて、それで (東京弁・「麻布の女性のことば」)

もう一つの中止形は、「カキ」「ミ」「キ」「シ」のような形で、多段型は基幹イ段形、一段型は基幹、「来る」「する」はイ段形と同形である。書きことば的であり、口頭語的表現としてはあまり使われない。

- ・今日はまず体操をし、朝ご飯を食べ、それから仕事を始めた。

〈仮定形〉

「カケバ」「ミレバ」「クレバ」「スレバ」などで、多段型動詞はエ段形に「バ」を、一段型動詞・「来る」「する」は基幹に「レバ」を接続する。その縮約形で、ア段拗音を含む「カキヤ (一)」「ミリヤ (一)」「クリヤ (一)」「スリヤ (一)」が、主に低いスタイルで使われる。

- ・やっぱみんなあわてれば車で逃げだそーと思うでしょーね。(生活・「震災」)
- ・終わりゃー今度、みそかそばだ。大晦日にね。(集成)

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段形「キ」「シ」に「タラ」を付した形もある。予測的条件文では、主節が命令・意志などの働きかけの表現である文、後件が望ましくない事態で、文全体がその事態を避けるべきであるという意図を伝える文など、「バ」の使用が制限され

る場合を中心に用いられる。若年層ではそのような場合に限らず、多く使われるようになってきている。

- ・また今度(こんだ)、見てきたら教えてやる。(LAT・「昔の楽しみ」)
- ・そーゆーのに見つかたら大変だよ。(集成)

〈否定形〉

多段型動詞はア段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形「コ」に、「する」はイ段形「シ」に「ナイ」が接続する。「ナイ」は低いスタイルで融合形「ネ(一)」になりうる。「走る」などの基幹最終拍が「ラ」である多段型動詞の場合、ラが撥音化しうる。否定形は形容詞に準じた活用をする。

- ・ゴミ屋さんちつとも来(こ)ねーもの。(集成)
- ・おゆーや(「お湯屋」) ったって、今の人はおそらくわかんないよね。(東京弁・「本所の女性のことば」)

〈丁寧形〉

多段型動詞はイ段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「マス」が続く。

- ・そーゆーのありますね。(集成)

丁寧形の活用は多段型動詞に似ているがやや異なる。使われる活用形も限られている。断定非過去形「マス」、断定過去形「マシタ」、意志形「マショー」、推量形「マスデショー」、中止形「マシテ」、仮定形「マシタラ」、否定形「マセン」のようである。「バ」を接続する仮定形は日常的には使われない。否定形は「ナイ」ではなく「ン」が接続する。

- ・どこでもやりましたね。(集成)
- ・その話をしてもピンと来ませんよね。(LAT「昔の楽しみ」)

〈使役形〉

多段型動詞と「する」はア段形に「セル」が、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に「サセル」が接続する。一段型動詞に準じた活用をする。「セル」に代わって「ス」、「サセル」に代わって「サス」が一部の活用形で使われることもある。「ス」「サス」は多段型動詞に準じた活用をする。ただし、「ス」「サス」の使用される活用形は限られており、仮定形「～タラ」、中止形、過去形に多く、命令形、「バ」を接続する仮定形、否定形などは使われない。

- ・中の根っこをね、飲ませたんでしょ。(集成)
- ・女子大生にやらしたら全部できねー。(集成)

〈受身形〉

多段型動詞と「する」はア段形に「レル」が、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に「ラレル」が接続する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・おふくろに怒られるの。(集成)

〈可能形〉

①「カカレル」「ミラレル」「コラレル」など、多段型動詞のア段形に「レル」、一段型動詞の基幹・「来る」のオ段形基幹に「ラレル」の付いた形、②「カケル」「ミレル」「コレル」など多段型動詞のエ段形に「ル」、一段型動詞基幹・「来る」のオ段形基幹に「レル」の付いた形がある。①は受身形と同形。①②とも一段型動詞に準じた活用をする。多段型動詞では②が一般的であり、①は「行く」など一部の動詞に限って主として高年層で用いられることがある。一段型動詞と「来る」では高年層では①が主流であるが、中若年層では日常的には②も多く用いられる。特に短い動詞では②が優勢。この、一段型動詞と「来る」の②は「ら抜きことば」と呼ばれる。一段型動詞と「来る」では、②に比して①の方が規範的と意識されているが、若年層ではその意識も薄くなりつつある。「する」は代替形「デキル」が使われる。

- ・待避壕だよ、あの、このくらいで、こう階段造って、こう1人が入れるぐらいのね、1人か2人が入れるね、造ったの。(田中)
- ・学校(がっこ) 行かれない、ほんとに。(生活・「日本橋の魚河岸」)
- ・朝早く起きられないわけですよ。(LAT・「商売の話」)
- ・この前さ、新小岩まで来れたじゃん。(RP)

【若年層】

〈尊敬形〉

多段型動詞と「する」のア段形に「レル」が、一段型動詞基幹と「来る」のオ段形基幹に「ラレル」が接続する。受身形と同形。

- ・どーされますか？

より改まった形として、「オカキニナル」など、「オ+動詞+ニナル」の形がある。多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹の、前に「オ」、後に「ニナル」を付ける。ただし、基幹1拍の動詞はこの形を取れない(着る→×オキニナル)。「ニナル」の「ニ」は、主に高年層のくだけたスタイルで「ン」となること

がある。「来る」は代替形「イラッシュアル」「オイデニナル」、「する」は「ナサル」が使われる。その他の動詞でも、「見る」は「ゴランニナル」、「言う」は「オッシュアル」など、別系統の代替形が用いられる動詞が多い。

- ・銭湯もやっぱり 12 時ごろまでお客さんがお入りになってましてー、(LAT・「商売の話」)

〈継続形〉

多段型動詞は基幹音便形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「テイル」が付く。「イル」は存在動詞。一段型動詞に準じた活用をする。口頭語的表現としては、縮約形「テル」が多い。「モ」などの助詞で取り立てた場合は「テ-モ-イル」となる。

- ・ふっーと近づいてくとね、あの、みんな寝てるんだよね。(田中)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「タイ」が接続する。「タイ」形は形容詞型の活用をする。「タイ」は低いスタイルで「テー」となりうる。

- ・「ほんとにお前さんわかってんのかい」って聞きたいよ。(集成 65A p50-3)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ンダ」を接続する。書きことば的表現としては「ノダ」もある。「ンダ」の場合、連体非過去形の末尾拍がルのときは、ルが「ン」と合一化して1拍となり、「ミンダ」(見るんだ)のようになりうる。聞き手に情報を提示する場合は、やわらかい言い方として「ノ」で終止する形もある。女性的な言い方とされることがある。連体非過去形末尾拍がルの場合はルが撥音化しうる。話し手が新たな認識を得たことを述べる場合には、「ノ」ではなく「ンダ」を用いる。

- ・いまだにヤモリがいるんだよ。(集成)
- ・あすこきつと脱線すんだ。(あそこは必ず脱線するんだ。)(LAT・「チンチン電車」)
- ・お酒を出してやってね、飲まして帰すの。(集成)
- ・あれ?もう {寝るんだ / ×寝るの (疑問としては可)}。

予め決まっていることを遂行するように命令す

る用法もある。この場合、「ノ」は禁止命令にも使えるが、「ンダ」は禁止命令には使えない。

- ・ほら、さっさと {行くんだ / 行くの}。
- ・そっちには {×行かないんだ / 行かないの}。

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

基本的に形容詞の活用は1型である。「イー(良)」は、断定非過去形・連体非過去形、推量形、丁寧形、のだ形以外は「ヨイ(良)」と同じ活用をする。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、語幹に「イ」を接続する。低いスタイルでは融合形が現れうる。語末が「ai」「oi」の場合は「エー」(「アケー(赤)」「オセー(遅)」、「ui」の場合は「イー」(「サミー(寒)」)となる。単独で終止する場合と「ン」の前では、「アケ」のような短音形も現れうる。語幹1拍の「コイ(濃)」「ヨイ(良)」と、「トーイ(遠)」には融合形がない。

- ・お稲荷つてのはおつかないね、つったんですよ。(お稲荷さんというのはこわいね、と言ったんですよ。)(集成)
- ・敷居踏んだつてうるせーよ。(集成)

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、「アカカッタ」など、語幹に「カッタ」を接続する。

- ・あらなつかしかつたねー。(あれは懐かしかったねえ。)(集成)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」を接続する。低いスタイルでは「アケーダロー」のような融合形が現れうる。確認要求の用法もある。単独で終止する場合には「アカイダロ」のような短音形も現れる。

- ・今年の夏は暑いだろーなー。

単独で終止する「ダロ(一)」はそれ自体スタイルが低く男性的である。そのためニュートラルなスタイルでは、全体が丁寧体でなくとも、丁寧形の推量形「デショ(一)」が使われることが多い。

- ・夏になるとねー、馬(んま)ーかわいそーだ。暑いでしょー。で、帽子かぶってんだよ。(LAT・「チンチン電車」)

「アカカロー」のような、語幹に動詞的な接辞「カ

ロー」を付した形は古い形式で、書きことば的であり、その中でも使われ方が限られている。

- ・さぞや辛かろ一。
- ・間違いではなかる一か。
- ・断言してもよかろ一。

また、確信の低い推量形として、「アカインジャナイ」など、断定非過去形に「ンジャナイ」が接続する形がある。単独で終止する場合には文末上昇イントネーションを伴う。低いスタイルで、「アケ(一)ンジャネ(一)」のように、「語幹+イ」と「ナイ」の部分に母音の融合が生じた融合形になることがある。「ナイ」が短音形「ネ」となる場合は、若年層では飛び跳ねイントネーション(最初が低くて文末に向かって徐々に上昇する。「A~A」で示す)を伴うことが多い。

- ・ちょっと顔が{赤いんじゃない↑／Aあけんじやね}。

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定過去形と同形である。

- ・あったかいもんでも食べてくれ、とかね(集成)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形である。

- ・明治36年だと、女学校に行く人も非常に少なかった頃でございますね一。(東京弁)

〈中止形〉

「アカクテ」などのように語幹に「クテ」が付く。口頭語的表現として「アカクッテ」のように語幹に「クッテ」が付く形も使われる。

- ・共働きが多くて、(略)お風呂行ったりして一、出る頃になると九時頃になる。(LAT・「商売の話」)
- ・稲一やる田んぼと違ってね、泥が深くって、で、お百姓がね一、蓮(はす)を作ってる。(LAT・「チンチン電車」)

もう一つの中止形である語幹に「ク」を付けた形は、書きことば的であり、口頭語的表現としてはあまり使われない。

- ・顔が赤く、熱もある。

〈仮定形〉

「アカケレバ」のように、語幹に「ケレバ」を接続する。また主に低いスタイルで縮約形が使われる

ことがある。縮約形には、語幹に「ケリヤ(一)」の接続するものと、語幹に「キャ(一)」の接続するものがある。後者が多く使われる。

- ・{高ければ／高けりゃ(一)／高きゃ(一)}
買わない。

- ・水道だって出し方が悪きゃ柄(え)一ぶつかっっちゃうんだからね。(水道だって出し方が悪ければ(手桶の)柄にぶつかってしまうんだからね。)(東京弁・「浅草の浮世絵刷師のことば」)

ほかに、動詞と同様、語幹に「カッタラ」を接続する形もある。

- ・高かったら買わない。

〈否定形〉

語幹に「ク」を付し、形容詞「ナイ」を接続する。「ナイ」は低いスタイルで融合形「ネ(一)」になりうる。「ナイ」の前に取り立て助詞が介在しうる。主に高年層のくだけたスタイルで、取り立て助詞「ワ」は「ク」と融合して、「カ(一)」となりうる。

- ・2000円くらいかな。そんなに高くないと思うけど。(RP)【若年層】
- ・そんなに高かね一。(そんなに高くはない。)

〈なる形〉

語幹に「ク」を付し、動詞「ナル」を接続する。「ナル」の前に取り立て助詞が介在しうる。

- ・今はホーズキなんて高くなっちゃったから(集成)

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を接続する。単独言い切りでは使いにくく、終助詞を付けるか、従属節内で「カラ」「ケレドモ」などの接続助詞を付けて用いると許容度が高くなる。「アケーデス」のような融合形は使われない。スタイル的な一貫性がないためと思われる。

- ・ずいぶん高いですね。

よりかしこまった丁寧形として、交替語幹長音形に「ゴザイマス」を接続する形がある。

- ・ずいぶん高(たこ)一ございますね一。

〈のだ形〉

連体非過去形に「ンダ」を接続する。書きことば的表現としては「ノダ」もある。低いスタイルでは「アケ(一)ンダ」のような融合形が現れうる。動

詞と同じく、聞き手に情報を提示する場合は、やわらかい言い方として「ノ」で終止する形もある。女性的な言い方とされることがある。話し手が新たな認識を得たことを述べる場合には「ノ」で言い切るのではなく、「ネ↑」などの終助詞を付けるか、「ンダ」を用いる（動詞と異なる。状態性だからか。動詞でも「ある」などは形容詞と同じ）。

- ・A：苦（にげ）ーんだよね。
- B：苦いのよ。（集成）
- ・あれ？妹の方が背が{高いんだ（ね↑）／×高いの（疑問としては可）／高いのね↑}。

【形容名詞述語・名詞述語】

〈断定非過去形〉

断定非過去形は、形容名詞・名詞に「ダ」を接続する。「ヨ」「ネ」などの終助詞を付ける場合が多い。形容名詞、名詞で言い切ることもある。それに「ヨ」「ネ」などの終助詞を付けると、女性的な言い方とされることがある。

- ・なーんか変だねー。（集成）
- ・カンの薬だって。（癩の薬だと言って）（集成）
- ・そーゆーのがあれ、下町情緒ね。（集成）

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、動詞的な接辞「ダッ」に「タ」が付く。

- ・そこはもー裕福だったしょ。（そこはもう裕福だっただでしょう。）（集成）

〈推量形〉

動詞的な接辞「ダロ（一）」を接続する。単独で終止する場合には「シズカダロ」のような短音形も現れる。

- ・それが江戸弁だろーと僕は思ーんだ。（集成）
- ・な？思ったより静かだろ？

動詞と同じく、単独で終止する「ダロ（一）」はそれ自体スタイルが低く男性的である。そのためニュートラルなスタイルでは、全体が丁寧体でなくとも、単独で終止する場合は、丁寧形の推量形「デショ（一）」が使われることが多い。

- ・ね？思ったより静かでしょ？

また、確信の低い推量形として、「シズカナンジャナイ」「学生ナンジャナイ」など、「ナ」に「ンジャナイ」が接続する形と、「シズカジャナイ」「学生ジ

ャナイ」など、形容名詞・名詞に「ジャナイ」が接続する形がある。文末上昇イントネーションを伴う。低いスタイルで「ナイ」は連母音 ai の融合により「ネ（一）」となることがある。短音形「ネ」となる場合は、若年層では飛び跳ねイントネーション（最初が低くて文末に向かって徐々に上昇する。「ア〜」で示す）を伴うことが多い。

- ・ここよりは{静かだろ（一）。／静かでしょ（一）。
／静かなんじゃない↑／静かじゃない↑／
／静かなんじゃね↑／静かじゃね↑}
- ・あの二人{親子だろ（一）。／親子でしょ（一）。
／親子なんじゃない↑／親子じゃない↑／
／親子なんじゃね↑／親子じゃね↑}

〈連体非過去形〉

連体非過去形は、形容名詞の場合は「ナ」が後接する。名詞には述語としての連体非過去形はなく、格助詞「ノ」を用いる。

- ・ものすごいね、立派なお稲荷さんがいたの。
（集成）
- ・おみおつけの実（味噌汁の具）になるように
ね。（集成）

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形である。

- ・駒高（こまこう＝駒沢高校）の生徒さんだっ
た人みたい。（RP）

〈中止形〉

「デ」を接続する。

- ・ぼかー（僕は）いまだに不思議でしょーがね
ーんだ。（集成）
- ・見てる人は不特定多数で、いろんな方がいる。
（集成）

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ナラ」を付す形と、「ダツタラ」を付す形とがある。

- ・Mちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと
思って。（RP）
- ・Tちゃんの性格だつたらさー、やっぱりそん
なに悪気でゆったんじゃないってことはさ
ー、やっぱりわかってもらえると思うのよー。
（RP）

〈否定形〉

「ジャ（一）」に形容詞「ナイ」が続く。「ジャ」

は短音形が多い。取り立ての意図を強調するときなどは、非融合形の「デワナイ」も使われる。「ナイ」は低いスタイルで融合形の「ネ(一)」になりうる。「モ」などの取り立て助詞が介在する場合は、「デ+取り立て助詞+ナイ」となる。

- ・手先が器用じゃないよ。(集成)
- ・今なあゴミじゃあねーんだー。(今のはゴミじゃないんだ。)(集成)
- ・そんなに器用でもないよ。

〈なる形〉

「ニ」を付し、動詞「ナル」が続く。主に高年層のくだけたスタイルで、「ニ」は「ン」になりうる。「ニ」の後に取り立て助詞が介在しうる。

- ・1月が終わって2月んなる。(集成)

〈丁寧形〉

「デス」を接続する。

- ・なんせ明日(あした)お正月なんだからね、これ大変ですよ。(集成)
- ・もとを洗や一雑種ですよ。(元を洗えば(=調べれば)雑種ですよ。)(集成)

よりかしこまった丁寧形として、「デゴザイマス」を接続する形がある。伝統的東京方言の山の手ことばでは「ザーマス」のように聞こえるくずした発音があったが、今では全く使われていない。

- ・静かでございますね。／静かざーますね。

〈のだ形〉

「ナ」に「ンダ」を接続する。書きことば的な表現としては「ノダ」もある。やわらかい言い方として「ノ」で終止する形もある。女性的な言い方とされることがある。

- ・子どもでもなんか楽しいんだねー。祭りなんだーってゆう感じねー。(集成)
- ・31日(んち)ではだめなのよ。(集成)

用例出典

集成：国立国語研究所(2002)国立国語研究所資料集13-6『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川』「I.東京都台東区1980」国書刊行会

LAT：東京都教育委員会(1986)『東京都言語地図』「自然談話篇 I 台東区」

生活：平山輝男編集代表・秋永一枝編(2007)『日本

のことばシリーズ13 東京都のことば』「V 生活の中のことば 日本橋(現中央区)と浅草(現台東区)の女ことば」明治書院

東京弁：秋永一枝(2006)『19・20世紀東京弁録音資料のアーカイブ化とその総合的研究』科学研究費補助金研究成果報告書

田中：「田中章夫先生インタビュー：東京山の手空襲の話」国立国語研究所共同研究プロジェクト研究成果公開サイト「首都圏の言語の実態と動向に関する研究：東京のことば研究者インタビュー」

<http://pj.ninjal.ac.jp/shutoken/2-1.html>

R P：「ペア入れ替え式ロールプレイ会話」JSPS 科研費25370539「方言ロールプレイ会話における談話展開の地域差に関する研究」(研究代表者：井上文子)研究成果公開サイト「方言ロールプレイ会話データベース」

<http://hougen-db.sakuraweb.com/rp/index.html>

参考文献

林直樹(2012)「東京東北部のアクセント —2 拍名詞における音調実態と年層差・地域差—」『日本語の研究』8-2

三井はるみ編(2013)『首都圏の言語の実態と動向に関する研究成果報告書：首都圏言語研究の視野』国立国語研究所共同研究報告13-02、

<http://pj.ninjal.ac.jp/shutoken/5-2.html>

(三井はるみ)